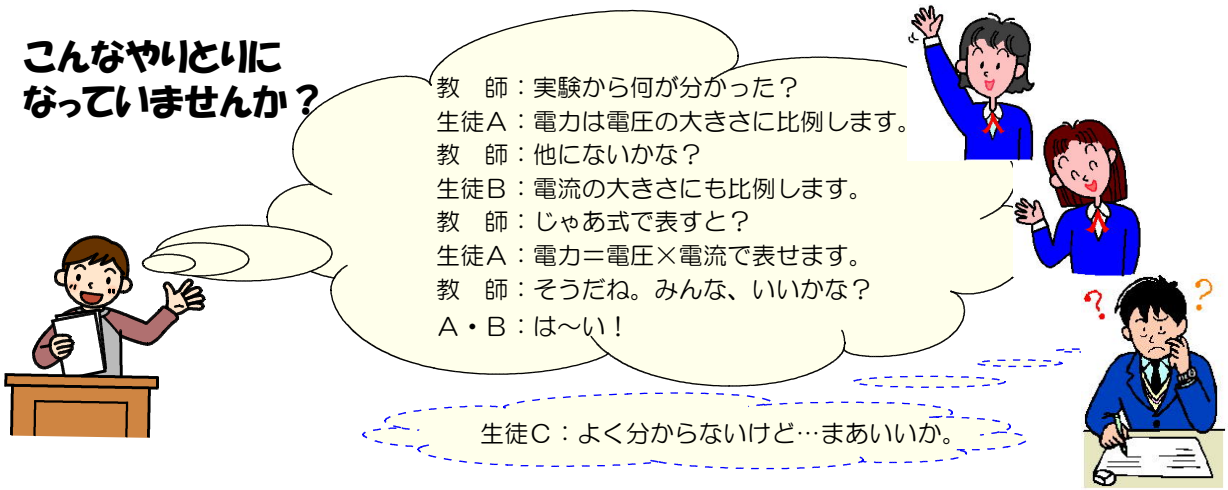
子ども主体の学び合いで思考力を高める

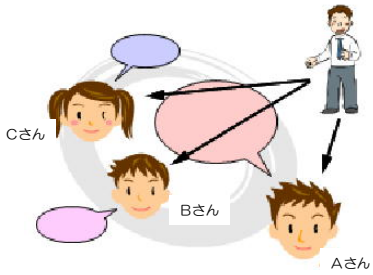
こんなやりとりになっていませんか？



一問一答型では、指名されなかった子どもが「傍観者」として時間を過ごすことになりがちです。子どもの実態を踏まえつつ、**子ども主体の学び合いの中で一人一人の思考力を高める**ことを目指して**教師のコーディネート**を見直してみましょう。

教師のコーディネート例

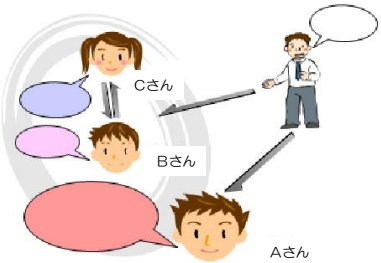
意図的指名型



一人一人の考えを把握し、それをどのように組み合わせて発表させるかを考え指名する。
個人の考えを広げたいときや練り上げて深めたいときに行う。

【発問の例】
○（似た考えの）Ｂさんは、Ａさんが、そう考えた理由を言えますか。
○（違う考えの）Ｃさんは、二人の考えをどう思いますか。

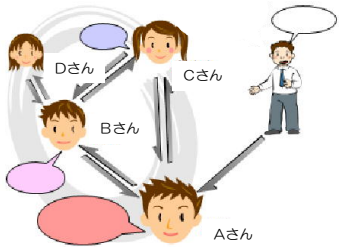
ペア対話型



全員に理解させたい大切な部分で行う。隣同士で互いに説明したり相談したりする。再生させることで、より確かな定着を図る。
内容によってはペアでなく小集団で行ってもよい。

【発問の例】
○　Ａさんが言ったことをお互いに説明してみましょう。
○　Ａさんの意見についてどう思うか、お互いに自分の考えを言ってみましょう。

子ども主体練り上げ型



教師の問いかけに子どもが自主的に考えを出し合う。教師は調整役になる。
「意図的指名」や「ペア対話」による学習を経験し、そのよさを実感することで実現できる。

【発問の例】
○　みんなは、Ａさんの考えをどう思いますか。
○　Ａさんの考えを踏まえると、どのような結論が得られるでしょうか。

授業の中では、これらを瞬時に行うことが求められます。

常に「よく聴く」ことを心がけ、どのように「つなぐ・もどす」かを考えましょう。

コーディネートの流れ

把握

授業中のあらゆる場面で見取る。教師の話を聞いているときの姿だけでなく、他の子どもの話を聞いているときの姿なども見逃さない。

解釈

見取った子どもの姿がなぜ生じているのか、その原因を考える。授業の進み方、説明の理解度、興味・関心等を子どもの立場で想像してみる。

選択

もう一度説明するのか、子どもを指名して説明させるのか、隣同士で相談させるのか等を選択する。指導の手立てを多くもっている必要がある。

実行

どのような言葉で発問・指示するか、誰を指名するか等の配慮をしながら次の指導を実行する。